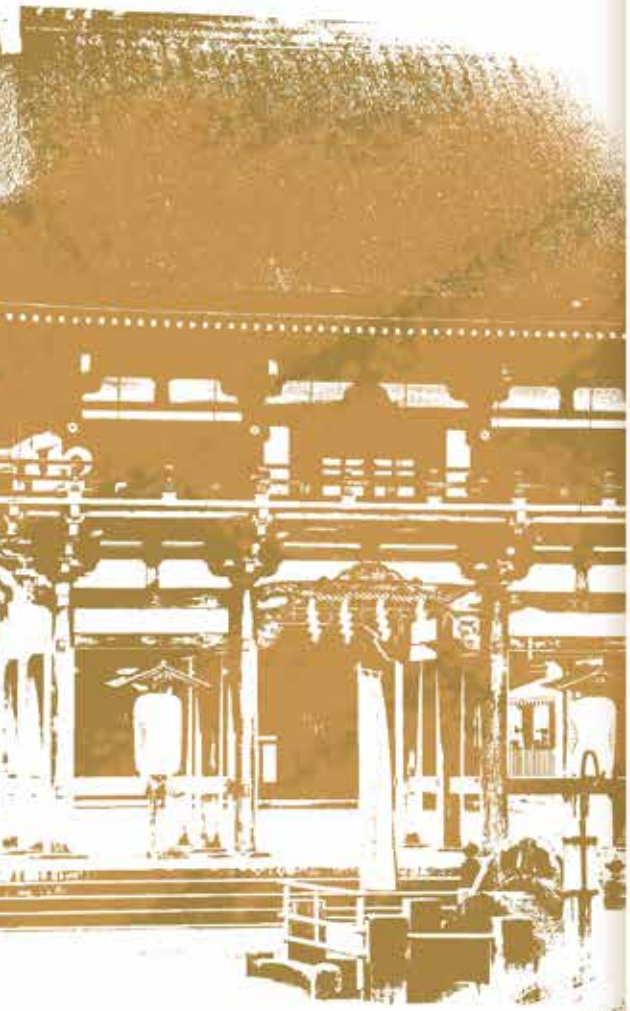
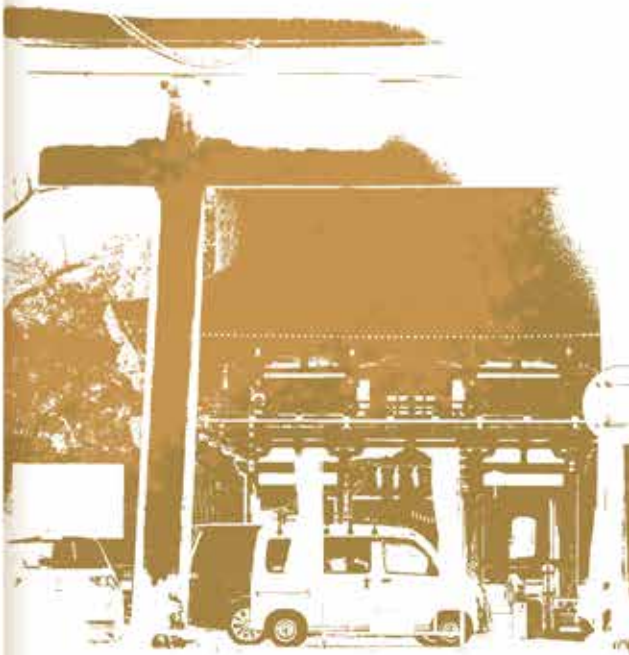






津島市天王通り再生プラン提案募集

入賞作品集





津島市

総　評

まず最初に、本提案募集と審査の経緯について報告しておこう。
本提案は、2017年7月11日（金）に募集を開始し、10月20日（金）締め切った。この間に、3回の現地説明会を開催し、総勢55名の参加があった。最終的には37作品の応募があった。
これを受けて、11月5日（日）に第一次審査を行い、第二次審査に進む10作品を選出した。その上で、第二次審査に向けて、提案内容のさらなるチューンアップを期待して、入選作品のそれぞれに対し、審査員による問題点の指摘とアドバイスのメッセージを送付した。
第二次審査は、12月16日（日）に、津島神社参集所において、入選者10組が参加し、実施した。入選者は、応募案のパネルとスライドを用いて８分間のプレゼンテーションと審査員による7分間の質疑応答を行なった。すべてのプレゼンテーションが終了した後に、審査員は、それぞれAを３作品、Bを４作品、Cを3作品の配分で選び、Aが3点、Bが２点、Cが1点として採点を集計した。
最終審査は、まず各審査員の評価と採点の集計表を公開し、これにもとづいて審査員と入選者の全員が参加する公開審査によって実施した。一つ以上のAの評価を得たのは7作品だった。A評価を得ていない3作品については、再度、応募者と審査員の意見を聴取した上で、佳作に評価することを決定した。次に、審査員全員がAの評価を与えた唯一の応募作品について、再度、各審査委員の意見を聴取し、否定的な評価はないことを確認した上で、最優秀に選ぶことを決定した。複数のA評価を得た5作品については、応募者の主張と審査員の意見を聴取した上で、審査員全員による複数回の挙手によって優秀作品2点に絞り込み、残りの2作品を佳作とすることを決定した。

今回の提案に関する審査の基準は、大きく分けると二つあると思われる。
第一は、行政主導のトップダウンな計画ではなく、当事者や市民が計画に参加できるような、ボトムアップな提案であることである。つまり、本提案では、名鉄津島駅から津島神社に至る、約１kmの長さの天王通り全体の計画やイメージの提案を求めているが、それを一挙に実現するような再開発的な提案を求めている訳ではない。そうではなく、市民の参加によって、部分的に実施され、それが時間をかけて徐々につながることによって、天王通りの賑わいを形成していくようなプログラムの提案が求められているのである。現在では、行政主導のトップダウンな再開発型の都市計画は、政治的にも財政的にも不可能になっている。それでも大資本による巨大な再開発計画は、現在でもまかり通っている。しかしながら、そのようなトップダウンなプログラムでは、ヒューマンスケールの繊細な町並みを生み出すことは難しい。さすがに今回の入選作には、あからさまにトップダウンな提案は見られなかったが、部分的な計画にまでブレイクダウンしている提案は少なかった。
第二は、プログラムや組織の提案はもちろん重要だが、それだけではなく、さらに一歩踏み込み、具体的なイメージやデザインを提案することの重要性である。長い天王通りの賑わいを取り戻すには、現状の問題の分析を初めとして、計画を担う人々の組織づくり、計画を進めていく手順などのプログラム（計画）の提案は、当然ながら重要である。しかしながら、そのような提案は、主として言葉や図式によって表現されるため、視覚的に理解することは難しい。一般の人々の興味を惹き、まちづくりへの参加を促すには、視覚的に表現された具体的なイメージや模型による提案が不可欠である。ただし、その視覚的な提案は、あくまでコミュニケーションのきっかけ作りであり、最終的な目標ではないことに注意しなければならない。
最優秀作品と優秀作品２点は、以上の二つの条件をうまく組み合わせた優れた提案である。天王通り全体の提案と、部分の提案が有機的に結びついていること。さらに、視覚的デザインとしても魅力的な提案になっていることにおいて、この３作品は、頭一つ抜けだしていると評価されたのである。



難波和彦審査委員長
（東京大学　名誉教授／放送大学客員教授）

入賞者一覧

最優秀賞

「「天王の橋渡し」～神に至るみち。天王通りを経てこその津島神社参拝～」　高橋 梢（合同会社 設計まちづくりテント）

優秀賞

「「見え隠れ」と「縁結び」」　石井 大五（フューチャースケープ建築設計事務所）

「軒先ガーデンのある参道」　村山 健二、村山 由佳（日建設計）

佳作

「歴史文化を背景とした賑わいの創出　-津島神社参道と歴史の継承を津島の軸に-」　木田 裕子、大澤 学思（有限会社 育 建築研究所）

「宿り道―天王通りの舞台再生―」　渡邉 貴大、池田 篤則、金城 正紀、高見 公雄（法政大学デザイン工学部都市環境デザイン工学科）

「Machiya Fractal ～部分と全体をつなぐ湊町の再編～」　坪内 健（北海道大学）、菊地 翔貴（株式会社フィルド）、長沢 麻未（北電総合設計株式会社）

「津島結び」　高田 康史（日本大学 短期大学部）

「マチナカ／レッドチョークボード／プロジェクト」　谷口 弘和（フリー）、塩原 裕樹（梓設計）

「軒に住まい、道に学ぶ」　中嶋 純一、重永 恵実（大阪市立大学大学院）

「つながる隔たり」　井上 宗則、谷津 健志、小山内 祥多、宮﨑 将行（東北大学大学院工学研究科）

その他の応募者一覧

「天王通アーバンリニューアル」　外山 重利

「愛着ってあるよ！」　五味 隆

「信長も愛した津島参詣道を未来へ」　加藤 秀昭

「ぼくたちの津島を作ろうぜ」　明松 洋介

「祝祭のみちを創る」　矢野 應

「天王通り　リバイバル・ヒストリー　プラン」　杉浦 邦彦

「歩きたくなる天王通り『津島　藤棚の小道』」　小堀 哲郎

「歴史燈る憩いの町」　長崎 友子、猪口 啓仁、内田 大棋、小田 智史、小俣 優季、山地 里歩、高瀬 悠人

「天王通りと津島みなとがうみだすにぎわいの運河」　藤本 健太郎

「GREEN WEB 文化と活動を繋ぐ」　山下 尚行、降簱 賢人、李 橋、西松 直樹

「津島市天王通り再生プラン」　石川 琴巳

「天王通り商店街再生構想」　新田 有平

「舞台-stage-としての参道」　横尾 拓実、小松崎 陵太

「ファブリック スペース ～布が織りなす公共街路～」　鹿毛 泰成、井上 高臣、国重 安沙

「風景をつむぐ～津島天王通り・百景～」　大島 映里、脇坂 圭一、塩見 寛、小出 遥貴、大河内 優

「津島の、風景になる。」　櫻井 祐太、森居 寛幸

「廻廊の街、津島」　加藤 大誠、桐谷 万奈人、久田 佳明

「津島ルネサンスプロジェクト～未来をつなぐアーケード物語～」　沖 尚也、中野 敏夫

「津島市天王通り再生プラン提案」　中河 龍夫

「ショクとマナビをツムグミチ」　加藤 吉宏、四元 敏樹、辻 数馬

「縮小都市商店街　-つながりがしんとうするまち-」　津村 智弘、竹村 弘生、土屋 敬人

「津島・つながる町」　知念 里奈

「TSUSHIMA 1,000m STAGE」　市井 暁、村越 勇人

「たなめぐり」　山本 泰生、塩崎 貴大、小坂 迪大、金田 周平

「藤並みがつなぐ街」　坂下 優樹、榊原 愛美

「歳をとろう、このまちと-散歩がつむぐ津島の物語-」
　阿部 智也、越山 幸治、柳 直登、日内地 清一、鈴木 稜平、秋山 智香、小谷 碧、大井 彩有里、石塚 慈生、篠田 航介、樋室 皓己

「津島もうやいこＳＴＡＴＩＯＮ」　萩原 克典

（受付順）

『津島市天王通り再生プラン』コンペ事業概要

募集概要

津島は、西の八坂神社、東の津島神社と並び称され、全国3,000社といわれる天王信仰の総本社である津島神社の門前町として、また、木曽川の支流である天王川の水利を活かした湊町として古くから栄え、近年においては毛織物産業の産地として大いに賑わいました。

名鉄津島駅から津島神社まで一直線に続く、長さ約1kmの天王通りは、昭和初期に新設された道路であり、通りの両側には商店が軒を連ね、津島神社までの参道として、多くの人が行き交う活気にあふれた大通りでした。

天王通りが新設されてから80年あまり、豊かで活気にあふれた天王通りも、まちの人口減少や高齢化に伴う後継者不足のため、空き店舗が増加してシャッター街化し、さらには取り壊しも進んで駐車場や更地が増えてきています。

また、昔は天王通りを通るバス路線がいくつもあり、市民や津島神社参拝客の足として利用されてきましたが、現在ではバスの往来もなくなり、公共交通空白地域となっています。

本市では、天王通りを「賑わい交流軸」に位置付けるとともに、天王通りを津島神社の参道に見立て、空き店舗を有効に活用するなど、津島駅から津島神社までの賑わいを創出する“天王通り再生プラン”を全国から募集しました。







■課題
「天王通りを津島駅から津島神社までの参道に
見立てた賑わいを創出する再生プラン」

■対象地
愛知県津島市天王通り

■現地見学会
日時：平成２９年7月３１日（月）
平成２９年8月１２日（土）
平成２９年9月２７日（水）

■提出図書
①応募申込書
②図面（A1サイズ縦使い1枚）
③設計趣旨書（６００字以内）

■応募作品にかかる注意事項
①ほかの設計競技等と二重応募になる作品、
あるいはすでに発表された作品ではないこと
②本人の作品でオリジナルな作品であること

■応募資格
①年齢・性別・国籍は不問、資格要件なし（共同設計可）
②一次審査で入選した場合、二次審査（公開）で
プレゼンテーション可能なこと

■作品提出期限
平成２９年１０月２０日（金）

審査方法

①一時審査会(非公開)
②二次審査会及び表彰式
　日時:平成２９年１２月１６日(土)
場所;津島神社参集所





審査員（敬称略順不同）

審査委員長
難波　和彦(東京大学　名誉教授／放送大学　客員教授)
審査委員
浅野　　聡(三重大学大学院工学研究科　准教授)
生田　京子(名城大学理工学部建築学科　准教授)
宮脇　　勝(名古屋大学大学院環境学研究科　准教授)
加藤　義人(三菱ＵＦＪリサーチ&コンサルティング株式会社
　政策研究事業本部　執行役員)
日比　一昭(津島市長　一級建築士)


難波　和彦


浅野　　聡


生田　京子


宮脇　　勝


加藤　義人


日比　一昭

著作権

入選作品の著作権は、入選者に帰属する。ただし、津島市がこの事業の趣旨に則して入選作品を地元でのワークショップ、ホームページへの掲載、図書の出版、展示などの公表その他事業の一環として用いる場合、入選者は無償で作品データ等の使用を認めることとする。

■最優秀賞■

「天王の橋渡し」
～神に至るみち。天王通りを経てこその津島神社参拝～

高橋　梢

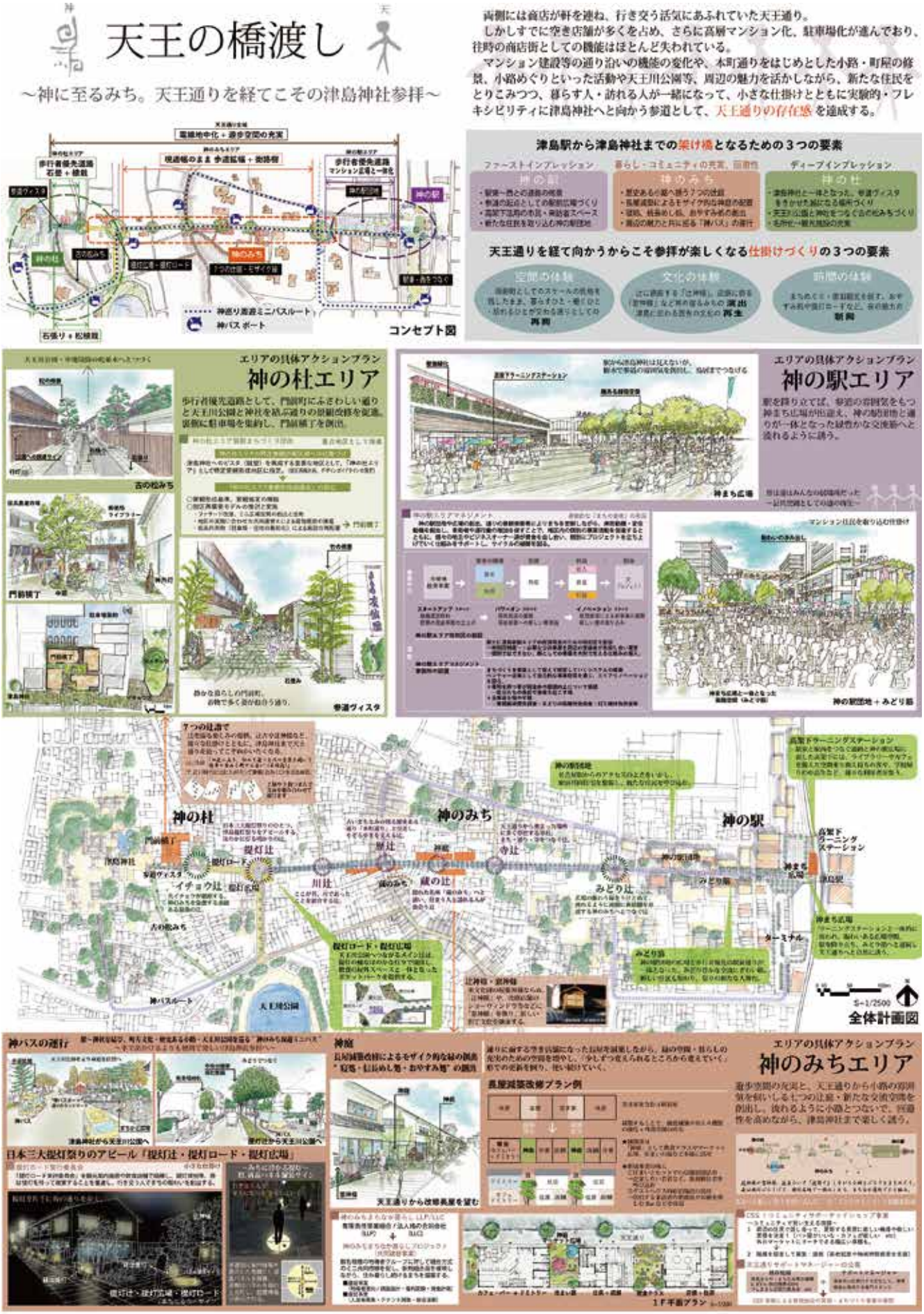


駅周辺機能の更新とにぎわい形成、小路・町屋の修景、
小路巡りの活動拡大等、暮らす人・訪れる人が一体となって、
津島神社へと向かう参道として天王通りの存在感を達成する。
架け橋3つの要素
1　神の駅　　駅前広場づくり
2　神のみち　神庭整備、7つの辻・辻庭づくり、神バスの運行
3　神の杜　　参道ヴィスタ・緑の道づくり
仕掛けづくり3つの要素
1　空間の体験　両側町の再興
2　文化の体験　辻神様・窓神様の神のみちの演出
3　時間の体験　夜の魅力の新興

講　評

天王通りを、その両脇の町屋と路地のゾーンを含めて、細やかな仕掛けによって再生させようとする提案である。通り全体を「神の駅」「神のみち」「神の杜」の3つのゾーンに分け、それぞれのゾーンにふさわしいイメージを提案しているが、その手がかりとして、天王通りに交差する路地や街路との交差点、すなわち「辻」に注目したアイデアが決定的である。というのも、通り全体はもとより、分割された3つのゾーンを総体として計画し再生させることは至難の技だが、「辻」は小スケールで空間的なまとまりがあるため、その特性を抽出することは比較的容易だからである。古来、道が交差し分岐する「辻」は、謎めいた場所であり「神」が宿ると考えられてきた。このため「辻」に対する個別的な提案は、住民にとっても分かりやすく、たとえ1か所だけ実現する場合であっても意義が深い。したがって、「辻」毎の個別的で不連続な提案が時間をかけて連続し、天王通りを再生させるというヴィジョンは、きわめてリアリティに富んでいる。天王公園から津島神社に至る路地が、細やかにデザインされている点も、高く評価されたことを付け加えておきたい。（難波　和彦）

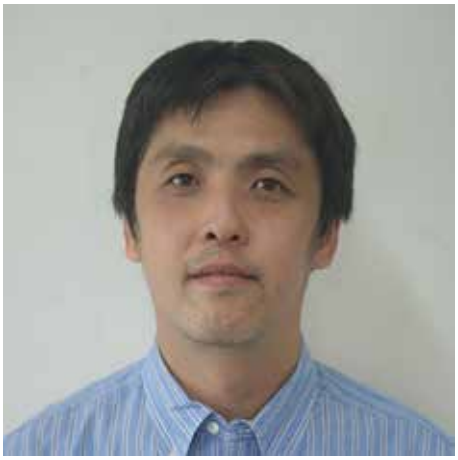
『津島市天王通り再生プラン』コンペ入賞作品紹介



■優秀賞■

「見え隠れ」と「縁結び」

石井　大五

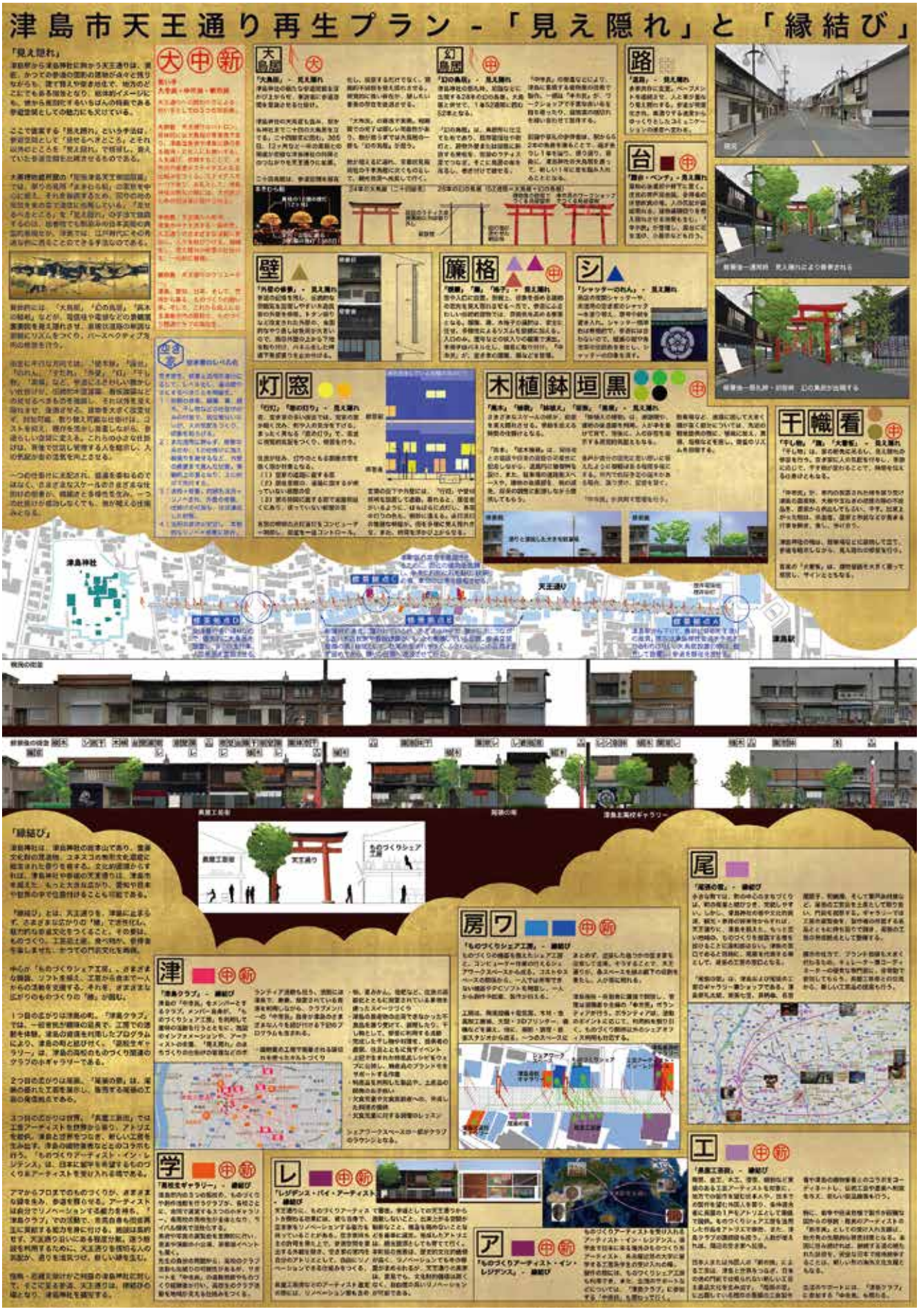


参道空間として「見せるべきところ」とそれ以外を「見え隠れ」で修景し、天王通りを再生。
建物を大きく改変せず、付加可能、取替可能な仕掛けが、見せるべきものを強調し、それ以外を見え隠れさせる。
そこに、さまざまな広がりのものづくりの「縁」の場をつくり、かつての門前文化を、ものづくりの縁で再生する。ものづくり活動に関わるアーティストや市民は、修景の担い手ともなる。

講　評

本提案は、参道空間として見せるべきところと空き地等の見せるべきではないところを「見え隠れ」の考え方で修景し、天王通りを参道空間として再生するというものである。二次審査会では、参道沿いの建築群に対しては、個人による一つひとつの建築に対する小さな修景事業が時間の経過とともに積層して景観が生まれ変わっていく様子、道路空間に対しては、鳥居群と樹木群が段階的に登場し、景観阻害要因を見え隠れさせながら新しいランドマークとなって根付いていく様子が上手にプレゼンされ、図面からでは十分に判断できなかった本提案の持つ時間軸について理解を深めることが出来た。現実性に偏りすぎて夢のないまちづくりが多い中で、作者は現実と夢物語のバランスを上手にとるように努め、実現可能と思われる小さな修景事業が多くの市民の手によって積層することによって、夢のような魅力的な参道空間に再生出来る可能性を示していることが高く評価された。
（浅野　聡）

『津島市天王通り再生プラン』コンペ入賞作品紹介



■優秀賞■

軒先ガーデンのある参道

村山　健二・村山　由佳





本案では、天王通りを地域の方々の生活・行事の舞台として再生するため、リノベーション等によって2階に住宅、1階に商業、沿道に「軒先ガーデン」というコモンスペースを設けること、天王通りの歩車道をフラットにつないでイベント利用しやすくすること、まちづくり会社によって軒先ガーデン・既存沿道スペース・道路空間を一体的に活用して参道全体を連続した機能・景観でつないでいくこと、の3点を提案する。

講　評

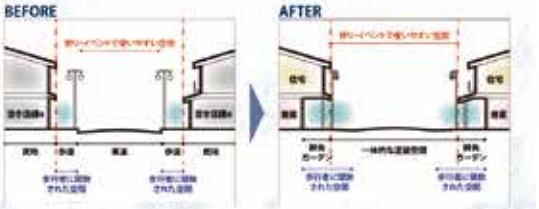
現状の狭めの歩道に対して、1階をセットバックして「軒先ガーデン」という空地をもうける提案である。改修や建て替えで軒先ガーデンをとることにより、通り沿い外部歩行空間に寄与すると同時に、建物内部の活用にも新たな展開を生む相乗効果が期待され、明解なビジョンとして示されていることが評価された。通り沿いの建物を分析して、実際にどの場所で行うと良いと考えるかなども示されており、加えて運営方法など市が問いかけた項目に対して全て盛り込んで提案しているなど、総合的に言及している点も大いに評価された。なお、歩道と車道の間のフラット化やストリートファニチャー、バス停などについても実際の空間のデザインにおとす描写がなされていたが、それらについては、やや拙速な表現にとどまっている印象で審査の場で質問が投げかけられた。（生田　京子）

『津島市天王通り再生プラン』コンペ入賞作品紹介

軒先ガーデンのある参道

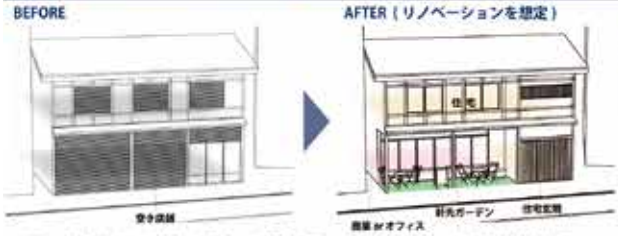
<民地側>
リノベーション・建替を促進し、沿道に参道の一部となるコモンスペース"軒先ガーデン"を設けます
<道路側>
車道と歩道をフラットにつなげ一体的な空間にします

・都市計画道路による道路拡幅なしで、楽しく快適に歩ける環境をつくります
・お祭りの時に広場・イベント空間として使いやすい広々としたパブリックスペースをつくります
・お祭りの時だけでなく日常的に生活感と賑わいが共存した参道景観を形成します





一、通りの顔をつくり、通りの機能を補完する軒先ガーデン



沿道に多く見られる木造２階建ての建物を中心にリノベーションまたは建替を促進し、1Fを商業またはオフィスと軒先ガーデン、2Fを住居として活用します。



軒先ガーデンは地域のコモンスペースとしてまちづくり会社と地権者が共同管理。飲食・休憩スペース、植栽設置場所、バスの待合スペース、街案内スペースなどとして機能します。

二、天王通りのイベント広場化



道路は歩道・車道をフラットにつなげ、移動可能な植栽プランターを歩車境界へ設置。さらに街路灯は官民境界際に設置し、なるべく障害物のない「広場空間」を形成することで天王祭などお祭り時にイベント活用しやすくします。

三、エリアマネジメントによる連続した機能・景観の形成

まちづくり会社が軒先ガーデン・既存沿道オープンスペース・道路空間を一体的に活用し、参道全体で連携した機能・景観を育みます。

駅～神社を結ぶ循環バスを走らせ、軒先ガーデンにバス待合所を設置したり（例1）、既存のセットバック空間や駐車場の一角に共通デザインのベンチ・プランターを設置して沿道に連続した景観を形成すること（例2）が可能です。





四、持続的なまちづくりに向けて

- 軒先ガーデンと天王通りを管理する官民共同出資のまちづくり会社を立上げます。
- 軒先ガーデンはまちづくり会社が地権者と共同的に管理し、同社が各地権者・テナントへ貸し出すファニチャーやプランターを配置します。
- まちづくり会社は天王通りの日常維持管理活動を市から請負う代わりに、お祭り・イベント時の道路使用料を出店者等から収入として得ます。
- まちづくり会社が循環バスを運営し、運賃収入や広告料で採算を取ることを目指します。



日常的に賑わう参道形成



『津島市天王通り再生プラン』コンペ入賞作品紹介

■佳作■

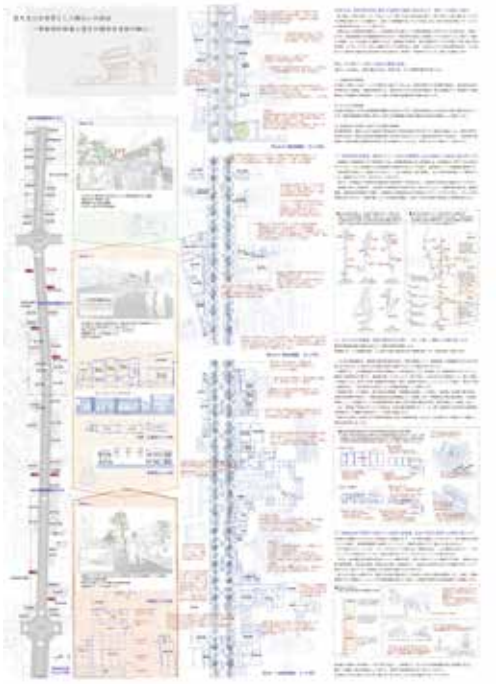
歴史文化を背景とした賑わいの創出
－津島神社参道と歴史の継承を津島の軸に－

木田　裕子・大澤　学思





津島神社参道を歴史文化継承の軸線と重ね合わせ、賑わいの仕掛けを創る。誇りを持って住み続けることができる環境を整え、異なった価値観を持った人々を迎え入れ、様々なモノヒトコトの往来を促すことで街のにぎわいを取り戻します。「唯一無二な明快な軸」として、津島の歴史文化、美術、工芸品と既存の空間を活用し、津島神社の参道を整備します。また、同時に現況の課題を「交通体系の再整備」「まちなみの再整備」「地域住民が日常的に参画できる空間の再整備」とし、解決を図ります。



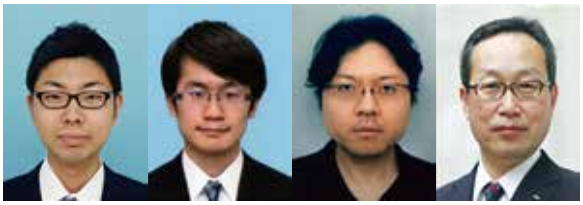
講　評

本提案は、唯一無二な明解な軸をつくるため、津島の歴史文化、美術工芸、現在ある空間を活用する提案である。全長が長い通りであるため、3つのブロックに分けて交通計画を提案している。駅側のブロックは公共交通の乗り換えを促す空間、中間のブロックは交通量を抑制した空間散策の空間、神社側のブロックは　そぞろ歩きができる場を提案している。各ブロックごとに異なるにぎわいを提案し、それぞれ大規模な催事、寄合場所、物販飲食を介して集える空間を作るといった点は説得力がある。さらに、全体を通じて、各ブロックの特性に応じた床の舗装の提案がなされ、松並木で統一された参道のランドスケープが特徴的で、評価された。プレゼンテーションの段階では、デザインも提案が加わり、ブラッシュアップされた点が良かった。交通計画やランドスケープを中心にした案はとても貴重で、行政への良いアドバイスになっていると評価された。なお、展示室の具体的な提案が欲しかったという意見があった。（宮脇　勝）

■佳作■

「宿り道－天王通り舞台再生－」

渡邉　貴大・池田　篤則・
金城　正紀・高見　公雄



天王通りの一方通行化と都市計画道路との結節点周辺の建替と同時に、「宿り道」を巡らせます。これは歩道を延伸したようなデザインで、同様の舗装 が空き家や空き地、リノベーション空間へ繋がることで、新たな連続性が生まれます。加えて、再開発による建替事業が「宿り道」といういわば「街の廊下」に 基づいて行われることで、この街の記憶が残ります。



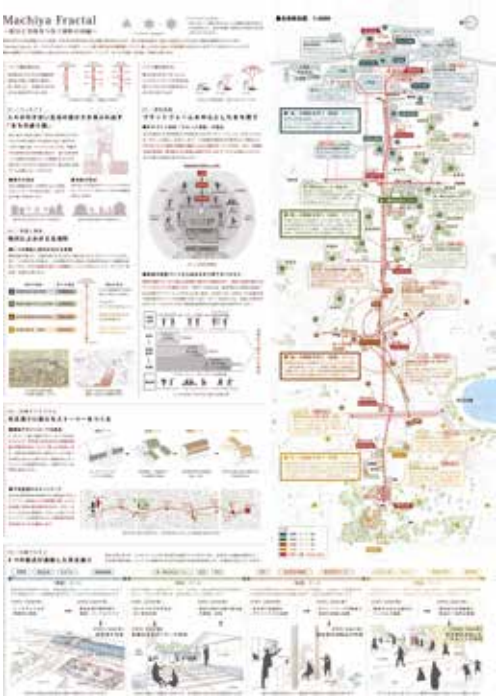
講　評

本提案は、人々が宿る場所として町の廊下を提案した作品である。宿り道は、奥行きのある歩きやすい通りを創出し、空き地、空き家を利用することで活性化するとともに、空き家の再生だけでは街の活力が生まれないため、住居や高齢者福祉施設などへの展開を図り、回遊性を高める点が優れていると評価された。南北に横断する道路の整備がさらなる分断になるため、結節点を考えて提案している点も評価された。さらに、当日のプレゼンテーションがわかりやすく良かったと評価された。ただし、全体的に同じ手法で提案しており、駅側や津島神社側の再開発規模は、もう少し変化があっても良かったという指摘があった。また、滞在時間をゆっくり楽しむことができるような津島市らしい魅力が加わるともっと良かったという指摘があった。（宮脇　勝）

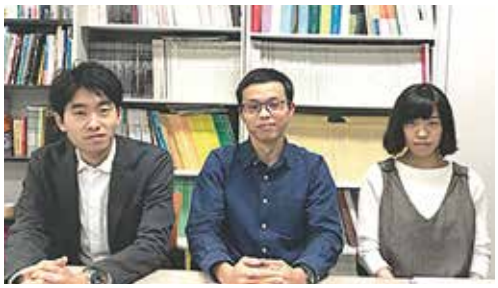
『津島市天王通り再生プラン』コンペ入賞作品紹介

■佳作■

Machiya Fractal
～部分と全体をつなぐ湊町の再編～



坪内　健・菊地　翔貴・長沢　麻未



津島のまちにある建物や人々の活動。それぞれを部分的に見れば魅力的であるものの、まち全体を見渡すと通りの衰退や人手不足など深刻な課題が生じています。「Machiya Fractal」は、フラクタルをテーマに掲げ、ハード面(家やまちの空間面)とソフト面(人々のふるまいや生活面)の双方からまちづくりを行うビジョンです。既存の建物や人々の活動を天王通りを中心につなぎ合わせていくことで、かつての湊町“津島湊”が現代に蘇ります。

講　評

本提案は、フラクタルをテーマにして、津島のまちに散在する空間資源と人的資源に着目し、これらがあらかじめ描かれた物語のもとで、連続性を持ちながら柔軟に変化することによって様々な特徴を持つ空間と行為を生み出し、全体として天王通りをつないでいくというものである。津島がかつて湊町であったことを踏まえて、「湊」「間」「宿」「市」の機能を持つ4つのゾーニングを設定していることが特徴的である。「部分と全体をつなぐ湊町の再編」というサブテーマが示す通り、部分と全体をつなぐ物語性が感じられる全体総合図が丁寧に描かれており、テーマと図面表現が上手に一致していたと思われる。なお、審査委員からは、フラクタルのアイディアをディテールでも徹底させること、湊町というコンセプトではあるものの、水との積極的な関わりのある提案が不在であること、主軸となる天王通りの街路デザインに関する新しい提案が不在であること、などが課題として指摘された。(浅野　聡)

■佳作■

津島結び



高田　康史



津島神社と共に生活を送ってきた街には、参拝習慣「願うこころ」がある。そこで、祈願文化を日常化することで、まちと関わる多様な機能・空間・生活を再考し、誰もが津島への想いを抱き募らせ参道に集う結びゆく交流の座(学座・健座・縁座・福座)を形成する。「路に願いを街に集いを」合言葉に、新たなまちの運営(津島参業体TuMu)による多主体の祈願マッチングは祈願コミュニティと参道再生を描くことを期待する。

講　評

多種多様な政策課題(賑わい、生涯学習、福祉、コミュニティ形成等)を天王通りの中で総合的に展開させようという意欲的な大作。但し、本題とすべき賑わい創出に関するプランニングが埋もれてしまっている。多核的・総合的であるが故に賑わい創出の実現性が見えてこない点が残念。
限られた時間と情報の中で詳密な調査を行い、多様なテーマを重層的に織り込む計画手法・表現手法は秀逸であり、行政の知恵袋となり得る才能が感じられる。
(加藤　義人)

『津島市天王通り再生プラン』コンペ入賞作品紹介

■佳作■

マチナカ／レッドチョークボード／プロジェクト

谷口　弘和・塩原　裕樹



天王通りに面する空き家や、空き地に面する建物の側面を赤いチョークペイントで塗装を施す。塗られた壁の前で津島のイベントを継続的に行うことで、徐々に赤い壁が町の憩いの場となる。また、天王通りに断続的に現れる赤い壁は、津島駅から神社までの新しい参道として、観光の軸となり、津島全体に一体感ある盛り上がりをつくる。使われることのなかった壁が生み出す「赤い風景」は、津島の魅力を発信し、賑わいのきっかけとなる。



講　評

天王通りでは、空地から垣間見る建物の側壁面が目にとまりやすい。そこに対して赤のチョークボードペイントを塗る提案である。目を引くレッドチョークボードは人を惹きつけ、隣接空地が新たな街のオープンスペースとして認識されていく。ペイントからスタートし、やがてバス停や青空教室、イベント、バル、舞台、屋台など様々な使い方へと段階的に発展していくであろう、という提案である。審査では、比較的低コストな方法で最初のきっかけを与えるという点、実現可能性の高さが評価された。また既に津島市内で起きている各種市民活動と、ペイントするというアクションのなじみが良く、各団体の活動を視覚的に束ねて行くことが可能ではないかとも評された。一方で、具体的な場所に対する提案がほとんどなかったため、津島のどの場所でどのようにするべきかを構想し示すべきとの指摘がなされた。（生田　京子）

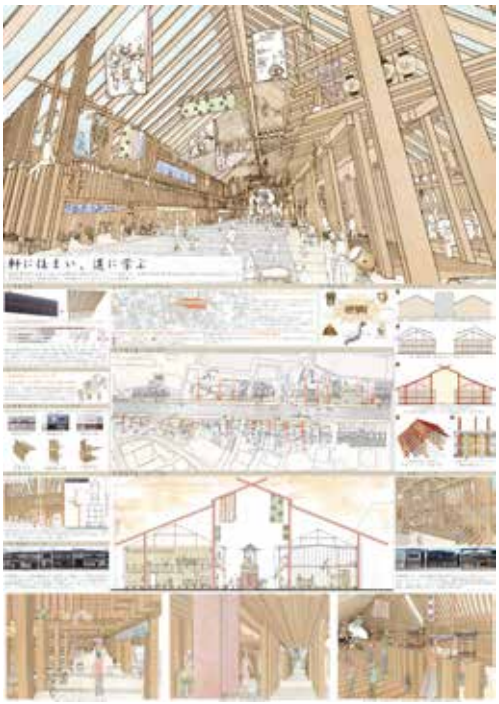
■佳作■

軒に住まい、道に学ぶ

中嶋　純一・重永　恵実



天王通りには軒裏に魅力が隠れていることが通りに面した建物144軒を構成するデザインコード（以下DC）の調査で分かった。そこで、三・四丁目の既存建物の構造体を残し、軒裏のDCを基にした構法・構造を挿入する。初めは、住民と市によるワークショップにより駐車場などの空きスペースの活用を行い、続いて徐々に空き家の利用を行う。軒裏のDCを日常のスケールに落とし込むことで、住民は街の良さを自然と体感することができる。



講　評

本提案は、天王通りに現存する町屋や民家を詳細に調査することを通じて、道路に面した庇軒裏の垂木が、町並を形づくる一貫したパタンであることを発見することから出発している。この垂木をデザイン・モチーフにして、通りに面する町並のファサードを構成し、さらには、垂木のパタンを、天王通りを覆う大屋根のシェルターにまで拡大し、線材による繊細で統一的な町並を生み出そうとしている。パブリックな通りを大屋根で覆う可能性については、法的な制約や、技術的な現実性を十分に調べた上で、現実性のある提案であることを確認している点が評価された。しかし、リアリティを追求するあまり、当初の木造による一体的で柔軟な空間・構造システムから、屋根を鉄骨構造に変更することによって、かえって解決すべき技術的問題を複雑で難解にしてしまったことが悔やまれる。とはいえ、学生ならではのヴィジョンに溢れた、思い切った提案であることを評価したい。（難波　和彦）

■佳作■

つながる隔たり

井上　宗則・谷津　健志・
小山内　祥多・宮﨑　将行





天王通りの背後には、歴史的な都市構成が残されている。そこで、天王通り沿いの空家に対して、この受け継がれてきた都市の形と接続するように出入口を変更する。新たな出入口前には、半屋外空間を挿入し人々の活動の場である界隈を生み出す。この構成の技法を「隔たり」と名付ける。天王通りと隣接する建物を空間的に隔てることで、参道としての性格が強められる。同時に、活動領域が天王通りを軸に広がり、津島界隈が形成される。

講　評

天王通から敢えて裏通りにエントランスを配置転換えすることによって新種の往来発生を引き出そうとする異色作。充実した図面や模型など、意欲的な取り組み姿勢も多くの共感を呼んだ。エントランスの無くなった天王通り側に賑わいの導火線を埋め込もうとする逆転の発想が多くの関心を集めたが、天王通全体の賑わい創出に向けたプランとしては発展途上。今後は、計画対象エリア全体に波及するプランニングへと昇華させる技法の熟成に期待したい。（加藤　義人）

編　集　後　記

にぎわい創出機構OSHIが立ち上がり、あっという間に9か月が過ぎようとしている。窓から天王通りを眺めていると、本当に人通りが少ない。厳しい状況の中でこれからどうしてゆくべきか、いろいろと考えあぐねていたが、今度のコンペの提案を通して、可能性のあるたくさんのアイデアに出会うことができた。

津島市天王通りの再生はいろいろなところにヒントが隠されていると改めて感じた次第である。これらのアイデアをネタに、市民の皆さんと天王通りの再生を大いなる夢をもって語ることができると確信した。

本当に、コンペをやって良かった。応募してくださった皆様には本当に感謝します。

一般社団法人　にぎわい創出機構 OSHI　代表理事　清水裕之

発行／津　島　市　平成 30 年 3 月
主催／津　島　市　運営／一般社団法人　にぎわい創出機構 OSHI
お問い合せ／津島市 建設産業部 都市計画課 都市計画グループ　〒496-8686　愛知県津島市立込町２丁目２１番地　TEL.0567-24-1111